

令和7年度 江戸川区立南篠崎小学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	・よく考え 進んで学ぶ子ども ・心身ともに たくましい子ども		・明るく思いやりのある子ども ・きまりを守り 責任を果たす子ども	目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	・組織で動く みんなで動く ・人を大切にする力 自分の考えをもつ力 自分の考えを表現する力 チャレンジする力 ・お互いが学び合える 相談し合える 互いを尊重し励まし合える教職員集団
前年度までの本校の現状	成果	令和5年度に実施した江戸川区教育課題推進実践校「子どもの言葉で創る算数授業の実践」を令和6年度は校内研究として引き続き取り組んだ。その成果として、担任が18人中9人異動者・初任者だったが、児童の思考を大切にした指導が行えるようになった。3学期には区の算数スタンダード公開授業も引き受け、他校の先生方にも成果を見せることができた。			課題 教職員一人一人の力はあるが、共有する時間を設けることが難しく、共通理解・共通実践を行うのには不十分なところもあった。

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価（A～D）		「中間」学校関係者評価（A～D）		「年度末」自己（学校）評価（A～D）		「年度末」学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力向上	○国語科を中心とした基礎学力の向上	・個別・グループ・全体共有といった45分の授業の組み立て方の工夫 ・校内研究での実践 ・アンケートの実施	・「自分の考えをすすんで表現することができる」「めあてをもち、すすんで学習することができる」でそれぞれ80%以上	B		B	校内研究授業等を通して、国語科を中心とした基礎学力の向上には励んでいる。 児童への学校評価中間アンケートでは、前者が70%、後者が71%肯定的回答だった。目標達成に向けて、児童が主体的に取り組む授業を展開できるよう、授業改善に励む。	B	学校側が立てた目標達成までには至っていないが、多くの子どもたちが前向きに学習に取り組んでいるので、引き続き頑張ってもらいたい。 保護者は理想が高いし、我が子を見て判断するから、教員と比較するのは難しい。					
	○教師の授業力向上・指導法の工夫	・一人一台端末を活用した授業の実践 ・アンケートの実施 ・授業観察 ・週案簿の提出	・「先生の授業はわかりやすい」「タブレット端末を使って調べる・まとめる・伝え合う授業をしている」でそれぞれ80%以上 ・学期に1回実施 ・毎週月曜日提出	A		A	児童への学校評価中間アンケートでは、前者が88%、後者が79%肯定的回答だった。 管理職による授業観察を学期に1回はして、指導助言を行っている。 毎週月曜日の週案提出率はほぼ100%である。	A	先生方には多くの児童がいる中、日頃から子どもたちの為に力を尽くして下さい、感謝している。					
	○読書科の更なる充実	・読書科ノートの活用 ・発達段階に応じた問題を発見し、本を通して集めた情報を整理・分析して解決するとともに自らの考えをまとめ・表現する学習の実施	・読書科コンクール提出率80%以上 ・「様々な本に親しみ、すすんで読書をしている」で80%以上	C		C	児童への学校評価中間アンケートは65%が肯定的回答だった。朝読書及び1単位時間の読書科の時間について、来年度に向けて再度計画を見直す必要がある。	B	子どもたちが関心を持てるような本の選書を慎重にお願いしたい。 漫画本からも学ぶことがあることを理解していただきたい。 電子書籍等も含めると評価も変わるのではないかな。					
体力向上	○個のめあてを明確にした授業実践	・めあてカードの実践 ・アンケートの実施	・「自分からすすんで体をきたえることができる」で80%以上	B		B	学校評価中間アンケートは74%が肯定的回答だった。GW明けから10月上旬まで暑い日が続き、外体育や外遊びができない日も多かった。	B	暑すぎる天候など、自然現象にはかなわない面がある。					
	○運動に親しむ機会の実践	・なわとびカード・マラソンカード等の活用 ・学期に1回、なわとび集会の実施	・取組カードの活用率80%以上	A		A	具体的な取組内容に記載したことは実践できている。取組カードは全学年で使用しているので、後期も引き続き実践していく。	A	天候等も考えないといけない中、子どもたちが意欲的になるよう取組カード等を用意して下さい、感謝している。					
	○健康な生活	・年間を通して水筒の持参の推奨 ・暑さ指数のチェック ・お便りを通して連絡	・月1回給食便りと保健便りの発行	A		A	具体的な取組内容に記載したことは実践できている。暑い時期は暑さ指数を確認し、外遊びの可否を毎回養護教諭が校内放送した。給食便りと保健便りも毎月発行している。	A	水筒の持参はいいことだと思う。 給食もおいしいと聞いている。					
実現に 教育の 共生	○人権教育の推進	・道徳の授業やなかよし班活動を通して、自分と異なる意見や立場の尊重 ・アンケートの実施	・道徳の授業となかよし班活動はそれぞれ年3回実施 ・「誰とでも仲良く遊んだり協力したりして仕事をすることができる」で80%以上	A		A	週1時間の道徳の授業や道徳授業地区公開講座等を通して、児童に互いの立場を尊重し合えるような授業を実践している。 学校評価中間アンケートでは84%が肯定的回答だった。 なかよし班活動も年間計画に沿って行っている。	A	多様化が進む中、目標達成はすごいこと。今後も大人も子どもも一人ひとりを大切にできるように。					

社会の 向けた 推進	○エンカレッジルーム の活用促進	・エンカレッジルーム対応 を全教員で分担し、学校全 体で支援体制を整える	・分担表を作成し実 施率１００％	B		B	分担表を作成したり、対応の仕方 を確認したりしているが、実施率１ ００％には至っていないので、共通 理解共通実践を目指す。	A	引き続き個に応じた対応をお 願います。					
	○副籍交流の実施	・都立鹿本学園及び対象家 庭との交流の仕方の打ち合 わせに応じた実施	・各学期１回以上の 実施(交流方法は 各々異なる)	A		A	コーディネーター、都立鹿本 学園及び対象家庭の三者で連絡 を取り合い、計画的に実践して いる。	A	人権尊重の面からこのような 交流はいいこと。交流や学び 合いがプラスに働いてほしい。					
不登校・いじめ対応の充実	○不登校未然防止	・SCやSSW等の関係諸機 関との連携 ・生活指導夕会で担当や担 任からの報告	・理由不明の欠席が ０	B		B	SCやSSW等の関係諸機関と関わっているが、 連携の点では改善が必要な点もある。 生活指導夕会での情報共有や理由不明の欠席家 庭への電話連絡および家庭訪問は実践できてい る。	B	不登校児童が一人でも減るよ うに引き続きお願いします。					
	○いじめ未然防止	・アンケートの実施 ・年３回、いじめ等に関す る道徳授業の実施	・「友達の失敗を励 ますことができる」 「いじめ等があった 時は先生に相談す ることができる」各々 で８０％以上	B		B	年３回の道徳授業の実施に加え、 必要に応じて、朝の会や帰りの会等 でも、いじめは許されない行為とい うことを伝えている。 学校評価中間アンケートでは前者 が８６％、後者が７７％肯定的回答 だった。	B	たくさん子どもたちがいる から、把握等で難しい時もある かもしれないが、不登校と同様 に、引き続きお願いします。					
	○一人一台端末を用い た心の健康観測	・L-Gate「毎日の記録」 の実施	・実施率９０％以上	A		A	２～６年生は６月より始めた。夏休み 最後の１週間も実施してスムーズに２学 期が始められるようにした。 １年生は９月から始めた。	A	一人一台端末を授業以外でも 活用していてすばらしい。					
学校（園）の 地域社会に 開かれた の実現	○学校公開、保護者 会、個人面談、運動 会、展覧会等学校行事 への参観	・１か月に１回程度学校に 足を運ぶ機会の設定 ・アンケートの実施	・「日頃の教育活動 の様子などについて 保護者会や学校たよ り等でわかりやすく 伝えていると思う」 で８０％以上	A		A	具体的な取組目標に記載した ことは実践できている。学校評 価中間アンケートでは８１％が 肯定的回答だったので、公開や 保護者会等の中身を充実させさ らなる向上を目指す。	B	昔より保護者は学校との関わり が薄くなってきているように 感じる場面もあるので、保護者 の方々には１回の機会を大事に していただきたい。					
	○学校ホームページや teturu配信の充実	・学校ホームページを定期 的に更新 ・学校便りと学年便りを１ 本化してteturu配信	・学校日記は週２回 程度更新を行う。 ・お便りのteturu配 信は２学期から毎月 実施	A		A	学校ホームページはほぼ毎日更新 している。 学校便りは９月からteturu配信し ている。学校便りと学年便りの１本 化は１０月より始めた。	A	保護者が学校に足を運ぶ機会 が少なくなってもHP等で様子が わかることは助かる。					
	○学校関係者評価の充 実	・児童、保護者、評議員、 教職員へのアンケート調査 の実施	・アンケートは中間 と最終の年２回実施 ・児童と評議員、教 職員は１００％実施 ・保護者は８０％以 上の提出	C		C	アンケートの実施は行った が、回答率は教員９６％、保護 者５８％、児童９４％と、いず れも目標達成には至らなかった。 ２回目実施の時は実施期間 にゆとりをもったり、アナウンス をこまめに行ったりする。	B	１回目の学校評議員会の時も この紙を見せてくれて、具体的 に説明してくれたので、学校の 取組等がわかる。					
特色ある 教育の展開	○働き方改革の推進	・年休等を取得しやすい職 場環境 ・見通しをもった仕事の実 践	・年休取得１５～２ ０日程度の教職員が ８０％以上 ・毎月の時間外勤務 ４５時間以内が９ ０％以上	B		B	年休取得はほぼ全ての教職員が年間を 見通して、計画的に取得できている。 時間外勤務４５時間以内を９０％以上 の教員が達成できたのは６月のみだっ た。SSS等の効果的な活用を推奨し、事 務的な業務を中心に教員の働き方改革を 後押しできる職場環境にする。	B	先生方が多くの時間、サービ ス残業をしている状況を、知ら ない保護者が多いと思う。当た り前に年休を取れるような環境 になっていただきたい。					
	○金管バンドや三味線 等の取組	・金管バンドや三味線の活 動を通して本校の伝統文化 の継承を進める ・ホームページ等で紹介	・学期に１回、学校 便りやHP等で紹介 する。	B		B	本校の教員に加えて、外部講 師にも依頼して、金管バンドと 三味線に取り組んでいる。	B	外部の方とも連携して子ども を育てるのはいいことだと思 う。					
	○科学教育センター、 農園活動、図書ボラ ティア等と連携した教 育活動の実施	・科学センター：４～６年 生の希望者を対象に実施 ・農園：低学年を中心に植 物の種まき、麦の脱穀等 ・図書ボラ：朝の読み聞か せ、本の紹介等	・「学校に関わる地 域の人とから様々な ことを教わったり活 動したりしている」 で８０％以上 ・学期に１回、学校 便りやHP等で紹介 する。	C		C	学校評価中間アンケートでは 保護者が５９％、児童が５６％ 肯定的回答だった。科学セン ター、農園、図書ボラ、いずれ も充実した活動を行っている が、周知等の面で不十分だった と思われる。掲示物やお便り等 で全体に発信し、活動の様子を 広めていく。	B	外部の方と連携して子供を育 てるのはいいことだと思う。多 くの方々が周知するよう、引き 続きお願いしたい。					